

日立地区安全衛生大会を開催

日立労働基準協会では、去る9月6日、日立シビックセンターに於いて、日立労働基準監督署の後援により、日立地区安全衛生大会を、今年で70回目となる労働衛生週間（10/1～7）の準備月間の取り組みと併せて、開催しました。

大会は、当協会の高倉運営委員の司会・進行により、初めに、労働災害で亡くなられた方のご冥福を祈り、参加者全員で黙とうを行いました。

続いて、当協会の根本副会長の開会あいさつにより、開幕しました。



〔表彰式〕

初めに、労働安全衛生活動、日立協会の事業への協力を積極的に行っている事業所2社、個人2名が受賞されました。
受賞者は次のとおり。

安全衛生優良事業場賞

マックス常磐株式会社 様

ファーマパック株式会社 茨城工場 様

功 績 賞

特別教育講師 2名



〔主催者あいさつ〕

主催者を代表して、水出副会長からごあいさつがありました。

全国労働衛生週間は、「健康づくりは人づくり みんなでつくる健康職場」をスローガンに、10月1～7日間を本週間として実施され、労働者の高齢化、そのほかで健康診断に何らかの異常がある方の割合が増加しており、治療と仕事の両立が難しい方が非常に多い状況にあり、また、業務上疾病の被災者も増加状況で、これらの対応も重要課題となっております、各事業所でもこれらの課題を含め改めて見つめなおし、積極的な健康づくりを行っていただきたい。



〔署長あいさつ、実施要綱説明〕

日立労働基準監督署 小室署長様からは、全国で脳・心臓疾患、精神障害の労災請求が依然として増加、健康管理と「働き方の改革」を推進し、こころとからだの両方の健康づくりを進めていただきたい、県内で製造業の死亡災害が増加、機械や足場等設備の安全点検、職長等責任者による不安全行動防止の指導により災害防止に努めていただきたい、とのごあいさつがありました。

また、同監督署 板垣第三方面主任監督官より、労働衛生週間実施要綱の取り組み事項等の説明がありました。



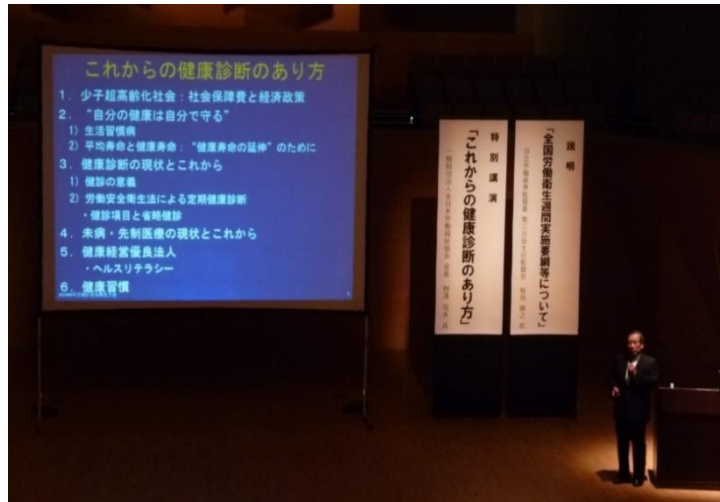
〔茨城産業保健総合支援センターからのお知らせ〕

同センターの中村副所長からは、治療と仕事の両立支援に係るガイドライン、事業所からの相談窓口や保健師の活用、セミナーの案内など積極的な活用をお願いします、との説明がありました。

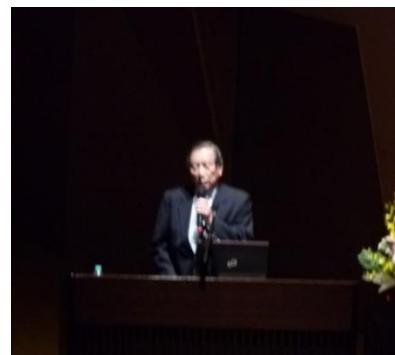


〔特別講演〕

大会最後は、特別講演「これからの健康診断のあり方」と題して、(一財)全日本労働福祉協会会長 柳澤信夫氏の講演があり、健康習慣を身に着けることで、生活習慣病の予防、改善につなげること、健康診断により身体の状態のは握と、早期発見により健康寿命を伸ばすことを、また、企業には「健康経営」の推進を、それぞれ望みたいとの説明がありました。



- ◆ なお、柳澤会長は、松本サリン事件の発生時に、◆
- ◆ 信州大学に在職しており、被災者の治療等に活躍◆



◆ され、また、地下鉄サ◆
◆ リン事件では、治療経◆
◆ 験、データを提供する◆
◆ など、それぞれに重要◆
◆ な役割を果たされた経◆
◆ 歴をお持ちの方です。◆